

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26460591

研究課題名(和文) クリニカル・クラークシップへの専門職連携教育プログラムの導入と学習効果の評価

研究課題名(英文) Clinical IPE: Interprofessional education in a point-of-care setting

研究代表者

朝比奈 真由美 (ASAHINA, Mayumi)

千葉大学・医学部附属病院・准教授

研究者番号：00302547

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：千葉大学では、2007年から医療系3学部である医・薬・看護学部が協働して多年次積み上げ式の臨床前IPEプログラムを実施してきた。本研究の目的は専門職連携能力のさらなる向上を目指してクリニカル・クラークシップへ医・薬・看護学生が参加するIPEプログラム(クリニカルIPE)を開発、導入し、その効果と実施上の問題点を検討することである。2014年にクリニカルIPEの学習到達目標設定、方法を検討し、2015年には2病棟、2016年に10病棟で実施し、参加学生と実習指導者に対しインタビュー調査、各学部卒業生に対し専門職連携能力評価尺度を用いた調査を行い、学会発表、論文作成準備中である。

研究成果の概要(英文)：Background: Since 2007, the medical, pharmaceutical and nursing departments of Chiba University have conducted a compulsory four-step, structured interprofessional education (IPE) program delivered throughout 4 years of preclinical education. To promote further interprofessional competence, we initiated an advanced IPE program in a point-of-care setting, Clinical IPE, aimed towards students who completed the preclinical IPE program. Summary of work: In 2015, IPE teams (n=4) consisting of a medical, a pharmaceutical and a nursing student, were assigned to the intensive care unit (n=2) and the pediatric ward (n=2). In 2016, IPE teams (n=12) were assigned to ten wards. Students and clinical teachers from medical, nursing and pharmaceutical professional were interviewed to give feedback for the clinical IPE implementation. Interview data are now under analysis.

研究分野：医学教育

キーワード：専門職連携教育 クリニカル・クラークシップ

1. 研究開始当初の背景

専門職連携教育 (Interprofessional Education、以下 IPE)は、チーム医療実践能力を修得させることを目的として、多くの医療・福祉系の学部・大学で実施されるようになってきている。しかし多くのプログラムが臨床前教育にとどまり、カロリンスカ大学整形外科病棟で実施されている1週間のプログラム(引用文献)、昭和大学(引用文献)などクリニカル・クラークシップにおいてIPEプログラムを導入している大学は少数である。

千葉大学においても医療系3学部である医・薬・看護学部が協働して、2007年度から多年次積み上げ式のIPEプログラムを実施してきた。一方、プログラムの実施と並行して、専門職連携能力尺度の開発も同時に行ない、2012年 Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS-29)を開発した。研究代表者らが2012-2013年に実施したCICS-29を用いた2年間の医学部卒業生を対象とした比較研究(「医学生における専門職連携教育の長期学習効果の評価とプログラムの有用性の検討」平成23年度基盤研究(C)課題番号23590586)において、臨床前4年間のIPEプログラムを修了し、その後臨床実習を終えた医学生(2012年度卒業生)の卒業時の専門職連携能力は、IPEプログラムを受けていない医学生(2011年度卒業生)よりも高いという結果(引用文献)が得られ、臨床前IPEプログラムの臨床実践での有用性が実証された。

今後さらにIPEの教育効果を向上させるためには臨床教育の現場でのIPEプログラムを実施し、その効果の検証が期待される。

2. 研究の目的

本研究はクリニカル・クラークシップへ医・薬看護学生が参加するIPEプログラムを開発、導入し、医・薬・看護学生の専門職連携能力の向上をこれまでに研究代表者らのグループが開発した評価尺度を用いて測定し、プログラムの有用性を検証する。

3. 研究の方法

クリニカル・クラークシップ・カリキュラムに医・薬・看護学部、実習機関が協働してIPEを開発、実施する。

- 1)クリニカル・クラークシップIPEプログラムの学習到達目標を決定する。
- 2)クリニカル・クラークシップIPEプログラム導入に対する問題点を明らかにし、それらに対応しつつ実施方法を決定する。スタッフや教員からの情報収集を行う。
- 3)クリニカル・クラークシップIPEプログラムの実施における問題点を明らかにし、改善のための方法についての検討を行い、プログラムを改善する。学生、スタッフ、教員にインタビュー調査を行い、プログラムに対するフィードバックを受ける。

4)CICS-29を含めた複数の評価尺度を組み合わせて学習者に対する評価を行う。

4. 研究成果

2014年度は、クリニカル・クラークシップにおけるIPE(以下、クリニカルIPE)プログラム実施のために、情報収集、関係3学部の教員間でのプログラム作成を行った。クリニカルIPEの学習到達目標を表1のように策定した。

表1. クリニカルIPEの学習到達目標

診療・ケアの現場において、3学部学生チームで受け持つ患者について全人的に理解を深め、診療・ケア計画が立案でき、クリニカルIPEの終了時に学生は以下のことができる。

- ・チームの目標達成のための行動
- 患者の目標(チームの目標)達成のために、チーム状況を評価し、診療・ケアの現場の状況を把握して自己の実践を行うとともに、チームメンバーにフィードバックできる。
- ・チーム運営のスキル
- チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいて、チームメンバー間で情報共有と意思決定をしながらチーム活動ができる。
- ・チームの凝集性を高める態度
- チームメンバーおよび診療・ケアの場の多様な専門職と良好な人間関係を築き、患者中心の診療・ケアについて、建設的に話し合うことができる。
- ・患者を尊重した診療・ケアの提供
- フィールドの受け持ち患者に適した診療・ケア計画を、患者の意思を尊重しながらチームで立案することができる。
- ・プロフェッショナルとしての態度・信念
- チームで受け持つ患者の診療・ケア計画の立案について、専門職及び教員の支援を受けて取り組み、自分の課題を明確にできる。
- ・専門職としての役割遂行
- 自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を、学生の立場から実施・評価し、診療・ケアの場にフィードバックできる。

また、次年度実施予定の3日間のクリニカルIPEプログラムを開発した。2015年7月に救急・集中治療科および小児科において各2グループの3学部混成の学生グループ(医学部4名、薬学部3名、看護学部4名)が参加し、クリニカルIPEプログラムを行った。参加学生および実習指導者に対しインタビュー調査を行い、プログラム実施方法を改善した。この結果を国際学会で報告した(Asahina M, et al, An International Association for Medical Education Conference 2016, Barcelona, Spain.)

2016年7月に消化器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、血液内科、アレルギー・膠原病内

科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、脳神経外科、食道胃腸外科、救急・集中治療科の10診療科において、12の学生混成グループ(医学部15名、薬学部17名、看護学部13名)がクリニカルIPEを行った。その後、学生32名、実習指導者8名に対しインタビュー調査を行い、データを解析後、医学教育学会で結果発表および論文作成の準備中である。

CICS-29による卒業時調査は各学部の学生に対し毎年継続して行っており、データを継続して分析中である。

<引用文献>

Karin Hallin ,Peter Henriksson, Nils Dalen, Anna Kiessling, Effects of interprofessional education on patient perceived quality of care、Medical Teacher、Vol.33、2011、e22-26
https://www.researchgate.net/profile/Anna_Kiessling/publication/49706176_Effects_of_interprofessional_education_on_patient_perceived_quality_of_care/links/00b4952ced005e7e27000000.pdf
木内 祐二、高木 康、片岡 竜太、下司 映一、倉田 知光、【医療・福祉系大学における多職種連携・チーム医療教育の現在と未来】 【昭和大学】昭和大学の体系的、段階的なチーム医療教育カリキュラム、保健医療福祉連携、Vol.6、No.1-2、2013、pp.35-37
Mayumi Asahina, Takashi Maeda, Ikuko Sakai, Itsuko Ishii, Yoshinori Takahashi. Measuring interprofessional competency of medical students who completed a multistep, structured, four-year interprofessional education program. An International Association for Medical Education Conference 2013, 2013.8.25-29, Pregue, (Chech), (amee abstract book 2013;62.)

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7 件)

Ikuko Sakai, Takeshi Yamamoto, Yoshinori Takahashi, Takashi Maeda, Yuuko Kunii, Kana Kurokochi, Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29)、Journal of Interprofessional Care、査読有、Vol.31、2017、pp.59-65、<http://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13561820.2016.1233943>
Junji Haruta, Ikuko Sakai, Mariko Otsuka, Hisashi Yoshimoto, Kazue Yoshida, Michiko Goto, Development of an interprofessional competency framework

in Japan、Journal of Interprofessional Care、査読有、Vol.30、2016、pp.675-677、<http://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13561820.2016.1192588>

田邊 政裕、朝比奈 真由美、14. アウトカム基盤型教育 - その系譜と実践 -、医学教育の現在 - 卒前から専門医教育まで、別冊・医学のあゆみ、査読無、2016、pp.86-92、朝比奈 真由美、特集：プロフェッショナルリズム教育の現状とこれから、6. プロフェッショナルリズム教育の実践 - 千葉大学のプロフェッショナルリズム教育 -、医学教育、査読無 Vol.46、2015、pp.142-147、朝比奈 真由美、宮田 靖志、特集：プロフェッショナルリズム教育の現状とこれから、9. ワークショップのプロダクト 教育方略、医学教育、査読無、Vol.46、2015、pp.158-159、Takeshi Yamamoto, Ikuko Sakai, Yoshinori Takahashi, Takashi Maeda, Yuuko Kunii, Kana Kurokochi、Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: a pilot study in Japan、Journal of Interprofessional Care、査読有、Vol.28、2014、pp45-51
<http://www.tandfonline.com/doi/full/10.3109/13561820.2013.851070>
酒井 郁子、朝比奈 真由美、前田 崇、関根 祐子、黒河内 仙奈、山田 響子、多職種連携教育 取り組み事例 千葉大学の場合、医学教育、査読無、Vol.45、2014、pp.153-162、

[学会発表](計 9 件)

Mayumi Asahina, Mariko Otsuka, Kana Kurokochi, Yuko Sekine, Shoichi Ito, Ikuko Sakai, Clinical IPE: Interprofessional Education in a point-of-care setting. An International Association for Medical Education Conference 2016, 2016.8.27-31, Barcelona(Spain), (amee abstract book 2016;336.)
Shoichi Ito, Kiyosi Shikino, Kazutaka Noda, Mayumi Asahina, Takahiro Soma, Masatomi Ikusaka, Simulation-based training of difficult patient management for resident. An International Association for Medical Education Conference 2016, 2016.8.27-31, Barcelona(Spain), (amee abstract book 2016;262.)
Daniel Salcedo, Kazuyo Yamauchi, Mayumi Asahina, Shoichi Ito, Educating the Millennials: An invitation to evolve healthcare education? An International Association for Medical Education Conference 2016, 2016.8.27-31,

Barcelona(Spain), (amee abstract book 2016;544.)

Masahiro Tanabe, Mayumi Asahina, Shoichi Ito, Kazuyo Yamauchi, Daniel Salcedo, Kentaro Itami, Sequential spiral curricular design in outcome-based education, First World Summit on Competency-Based Education, An International Association for Medical Education Conference 2016, 2016.8.27-31, Barcelona(Spain)

朝比奈 真由美、大塚 真理子、黒河内 仙奈、眞島 朋子、関根 祐子、伊藤 彰二、酒井 郁子、臨床実習における専門職連携教育(Clinical IPE)、第48回日本医学教育学会大会、2016.7.29-30、大阪医科大学(大阪府・高槻市)

朝比奈 真由美、プロフェッショナルリズム教育のアウトカム シンポジウム 2 わが国でプロフェッショナルリズム教育は進んでいるか、第48回日本医学教育学会大会、2016.7.29-30、大阪医科大学(大阪府・高槻市)

朝比奈 真由美、本物のプロフェッショナルを育成する専門職連携教育(IPE)、第7回日本歯科衛生教育学会学術大会、2016.12.10-11、東京医科歯科大学(東京都・文京区)

Schoichi Ito, Toshiya Nakaguchi, Satoshi Okada, Kazuyo Yamauchi, Mayumi Asahina, Masahiro Tanabe. Developing an online system "c-Checker" for communicating and assessing clinical clerkship students. An International Association for Medical Education Conference 2015, 2015.9.5-9, Glasgow(UK), (amee abstract book 2015;493.)

Daniel Salcedo, Kazuyo Yamauchi, Mayumi Asahina, Shoichi Ito, Preparing Japanese medical students for international clinical clerkships: A simulation-based approach An International Association for Medical Education Conference 2015, 2015.9.5-9, Glasgow(UK), (amee abstract book 2015;795.)

〔その他〕

専門職連携教育研究センター
<http://www.iperc.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝比奈 真由美 (ASAHINA, Mayumi)
千葉大学・医学部附属病院・准教授
研究者番号：00302547

(2) 連携研究者

伊藤 彰一 (ITO, Shoichi)

千葉大学・大学院医学研究院・講師
研究者番号：60376374

酒井 郁子 (SAKAI, Ikuko)
千葉大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号：10197767

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI, Misako)
千葉大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号：80239392

石井 伊都子 (ISHII, Itsuko)
千葉大学・医学部附属病院・教授
研究者番号：00202929

前田 崇 (MAEDA, Takashi)
北里大学・一般教育学部・講師
研究者番号：10507966

岡田 聡志 (OKADA, Satoshi)
千葉大学・高等教育研究機構・特任准教授
研究者番号：00581779

関根 祐子 (SEKINE, Yuko)
千葉大学・大学院薬学研究院・教授
研究者番号：30567350

黒河内 仙奈 (KUROKOCHI, Kana)
千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：40612198

山内 かづ代 (YAMAUCHI, Kazuyo)
千葉大学・医学部附属病院・特任助教
研究者番号：30648069